

# 「ECALGA標準」のコンセプトに着目した JEITA/IBISセミナーを継続開催

JEITA/ECセンターでは、電子・電機業界ではすでにEDI普及が進んでいるSCM（サプライチェーンマネジメント）の業際化（他業界への広がり）と国際化に加え、ECM（エンジニアリングチェーンマネジメント：製造工程の有機的連携）にも注力する必要性を感じ、今後はさらにECALGA<sup>※1</sup>のコンセプトに光を当てたいと考えています。

ECM関連では、世界的にも標準化が進みつつあるIBISフォーラムとの共催でAsian IBIS Summit (Tokyo) in Japanを継続的に開催すると共にWG主催でJEITA/IBISセミナーを2015年11月に開催し好評を博しました。

JEITA/IBISセミナーについても継続的に開催する予定です。



EDI標準を簡単に言うと、「電子情報による企業間取引の標準化」です。企業間の取引と言っても業務範囲は広範囲に渡ります。ECALGA標準ではどこまでの業務をカバーしているのでしょうか。発注者側のプロセス横に並べてみると図1の上部のようになります。この一連のプロセスをECALGAでは商品企画から仕様決定までをエンジニアリングチェーン（ECM）とし、需要予測から出荷までをサプライチェーン（SCM）と定義しています。

右部の図1ではこれを更に発注者①と受注者②の業務プロセスに分け、間に取引上必要となる情報をカテゴリ別に分類③しています。ECALGA標準ではこれらの企業間の全業務プロセスをカバーしています。

また、JEITA/ECセンターでは、2015年度より将来VISION検討TFを立ち上げ、CPS、IoTなど世の中の変化を見据えた今後のECセンター活動につき模索を開始しました。

## 将来にむけ検討したテーマ

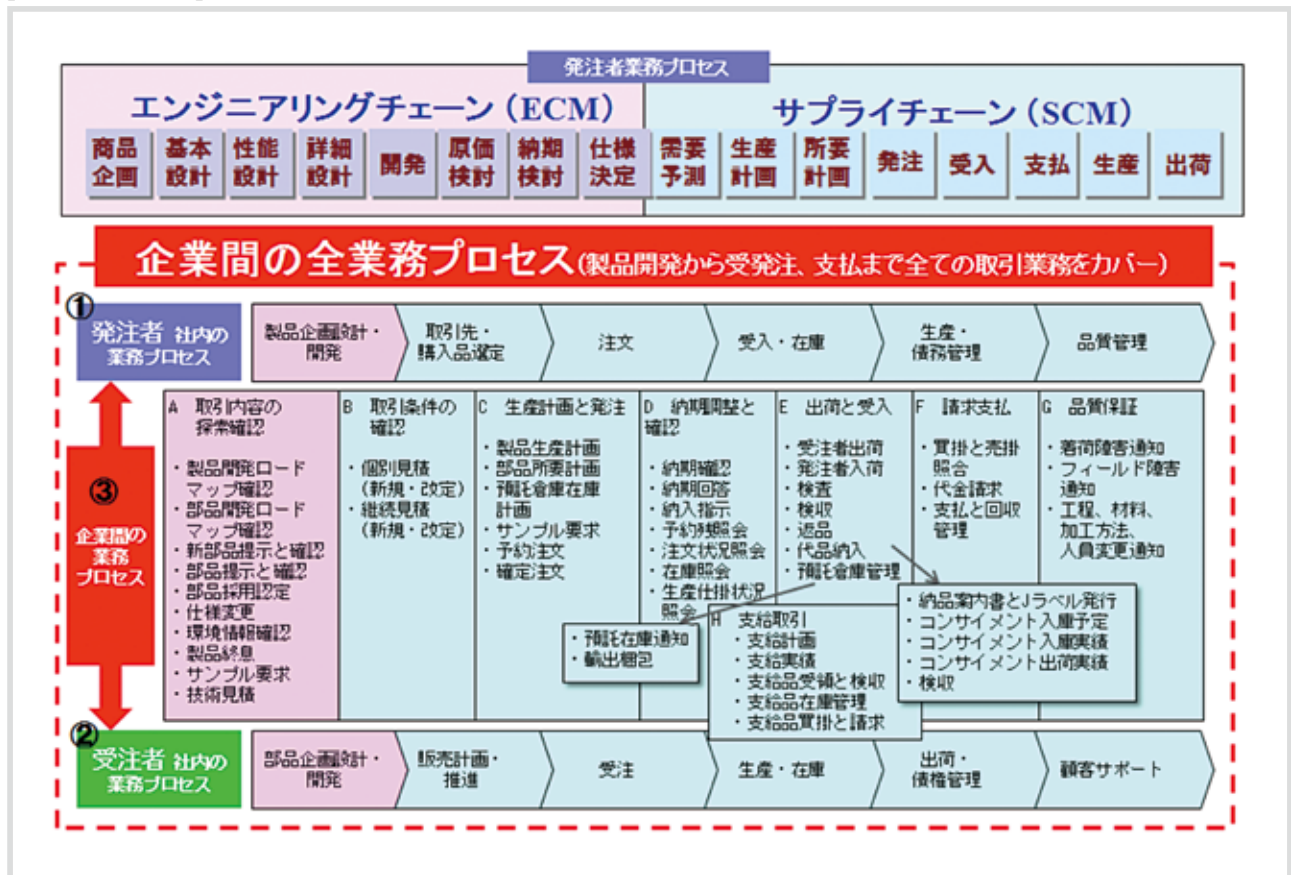
- ① オープンイノベーション
- ② トレーサビリティ
- ③ IoTを活用したサービス
- ④ 3Dプリンタ活用
- ⑤ つながる工場
- ⑥ 物流自動化
- ⑦ 営業の2極化

2025年ごろの将来像を考察する過程の中でこれからはカーエレクトロニクス、医療、エネルギーなどの分野がITCの進化 (IoT) を前提に再構築され「モノ」から「コト」への新たな変革が起こるだろうという想定をいたしました。JEITA/ECセンターでは、「コト」のスタンダードを最新

パッケージとして世の中に広め、「便利さ」の追求だけではなく「豊かさ」を実感できる社会の創造の一助となることを念頭に活動していきます。

将来VISION検討TF<sup>※2</sup>の今後の洞察で何が見えるのか？期待が高まります。

【図1:標準の範囲】



出典:ECALGA標準入門解説書

※1 ECALGA (Electronic Commerce Alliance for Global Business Activity) :

JEITA/ECセンターが標準化、実用化を推進している次世代EC標準の総称です。

※2 将来VISION検討TF構成会社 :

日本電気、富士通、日立製作所、村田製作所、アルプス電気、TDK、京セラ、KOA